

2017年4月26日

各位



『民間事業者の質を高める』
一般社団法人全国介護事業者協議会
理事長 佐藤 優治

厚生労働省 「平成 28 年度 老人保健健康増進等事業」 成果物

『Care Vol.2 -介護の現場で必要とされるシニアのカー-』の作成・公表について

一般社団法人『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会（略称：民介協 理事長 佐藤 優治、東京都千代田区内神田 2 丁目 5 番 3 号 児谷ビル 3 階）は、厚生労働省の「平成 28 年度 老人保健健康増進等事業」補助金を活用し、『Care Vol.2 -介護の現場で必要とされるシニアのカー-』（以下、本冊子）を作成・公表いたしましたので、お知らせいたします。

介護業界の仕事やボランティアは、そのフィールドの多様性（介護現場からマネジメント業務まで）や働き方の自由度、シニア層の活躍機会などの点から、国が推進する「一億総活躍」や「働き方改革」と極めて親和性が高いと考えられます。

その一方で、いわゆる「3K」のイメージや多くの国民の介護業界との接点が少なさから、必ずしもシニア層の介護業界での就業やボランティア参画が進んでいない現状があります。

そこで在宅介護事業者の全国団体である当協議会では、シニア層の方々に介護の仕事やボランティアの実態や魅力を理解していただくことを目的として本冊子を作成いたしました。本冊子は、シニア層への WEB アンケート調査結果や実際に介護事業者で働くシニア層へのインタビューなどを掲載しており、昨年度末に全国のハローワークや福祉人材センター、社会福祉協議会のボランティアセンターなどへ配布し、介護人材確保の現場においてご活用をいただいております。

■ 『Care Vol.2 -介護の現場で必要とされるシニアのカー-』の作成・公表について

1. 冊子名称

- ・ 『Care Vol.2 -介護の現場で必要とされるシニアのカー-』

2. 内容（詳細は後述）

- （1）介護事業所等で働くシニア人材へのインタビュー
- （2）シニア人材の介護の仕事へのイメージ、就業意向等に関する WEB アンケート調査結果
- （3）介護の職場や医療・福祉関連資格の紹介
- （4）自身に向けた介護の仕事・ボランティアを診断する適職診断チャート など

3. 普及啓発の方法

- ・ 8,000 部印刷し、全国のハローワーク、福祉人材センター、シルバー人材センター、社会福祉協議会などへ配布。

4. 本冊子の作成団体

- ・ 一般社団法人『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会（略称：民介協）は、在宅介護サービス事業者の全国団体であり、平成 28 年 12 月末時点で 600 社を超える介護

事業者が加盟しています。

- ・平成 14 年の団体設立以来、「介護サービスの質を高める」「介護が必要な方の地域での生活を支える」という使命のもと、全国 8 ブロックでの研修会の開催、厚生労働省をはじめとする関係機関への政策提言や要望書の提出、介護の質の向上に向けた調査研究などを実施しています。

5. 本件に関するお問い合わせ先

- ・民介協事務局（TEL：03-5289-4381 / 電子メール：info@minkaikyo.info）

以 上

冊子のコンセプト



介護のフィールドは広く、
シニアの方たちが思っている以上に多様な働き方ができる環境がある。

介護は体力的にきつい仕事ばかりではない。

資格がなくとも働ける職場がいっぱいある。

朝夕2時間ずつなど、年金生活の方でも、短時間勤務も可能である。
自分のやりたいこともできて、ボランティアとして好きな時間を人のために役立てることもできる。

その気になれば、資格を取って、正規雇用されることも可能だ。
介護の現場に行くことは苦手かもしれないが、管理・間接部門の仕事で役立つことも。

今までの人生経験、仕事の経験がフルに生かされる。
歳を重ねていることが、逆にプラスになる職場だ。

子育て後やリタイア後の人生をどうする？
ひいては自らの老後設計のヒントや介護予防にも！

—一般のシニア層を中心に、アンケートした結果は？—

シニア層は仕事をしたい人が意外と多い

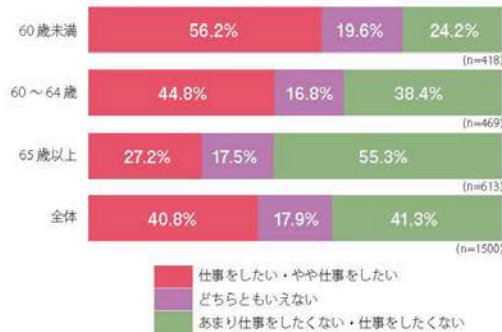
シニア1500人に
アンケート。
介護の仕事に
ついてどのくらい
知っていますか??

この本を作成するにあたり、
1500人の中高年齢層（55歳～70歳）の
人たちに、今後の働き方やボランティア活動参加への意向、
介護の仕事への興味・関心などについて、
インターネット上で以下のような
アンケート調査を実施しました。
果たして中高年齢層の人たちの介護分野への参入が
期待できるでしょうか？結果を踏まえ、考えてみました。

中高年齢で仕事をしたいと
考えている人は意外と多い

「仕事をしたい」「やや仕事をしたい」と答えた人は全体の約4割（図1）。年齢別に見てみると、60歳未満の人は6割近くが働きたい意欲をもち、60～64歳では4割強にのびります。しかし65歳以上では、3割を下回ります。つまりシニア層では、若い年代ほど、働く意欲が強いことがわかります。「どちらともいえない」と答えた人は流動的であると考えると、条件によっては働いてもいい、と考えている可能性も見逃せません。

図1：今後の就業意向（単数回答）



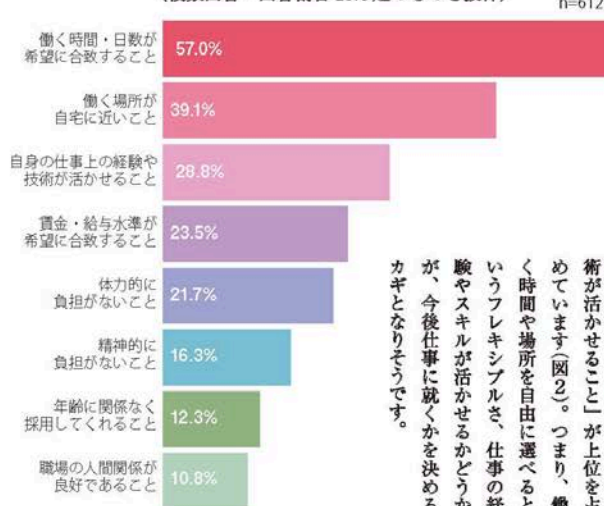
調査対象	過去に介護事業所で仕事をしたことがなく、かつ介護事業所で定期的にボランティア活動に従事していない、全国の55歳から70歳までの方
調査件数	1500件
実施時期	2016年11月25日～11月25日
調査手法	WEBアンケート調査会社「楽ナビサーチ」のモニターを対象としたWEB調査
調査項目	回答者の属性 ・今後の就業意向について ・今後のボランティア活動への参画意向について ・ふだんの生活における介護との接点 ・介護業界に対するイメージおよび就業活動意向など

労働条件や働く場所が折り合うことが大事

介護の仕事への興味は薄いですが、どちらともいえない流動的な人も結構多い

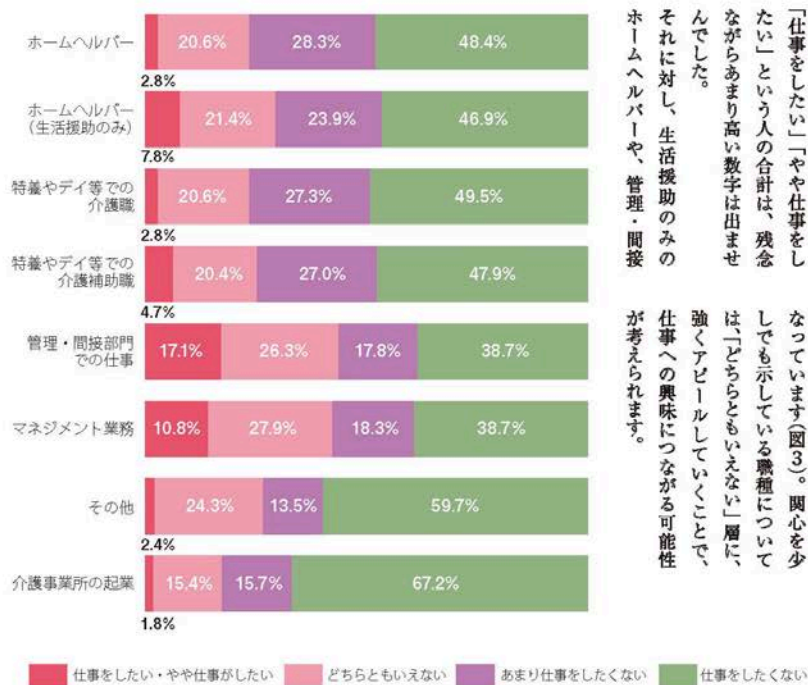
自身のスキルや
労働条件や就業場所が折り合い、
経験を活かせるかが力ギに…

図2：今後、仕事をする際に重視する点
(複数回答・回答割合10%超のものを抜粋)



「仕事をしたい」「やや仕事をしたい」と答えた人に、その理由を尋ねると、「生活費を得るため」や「健康維持のため」と答える人が約6割いて、「自分の小遣いのため」「将来の生活資金のため」「余暇の時間を有効に使用したい」が続きます。仕事をすると同時に重視することは、「働く時間・日数が希望に合致すること」がいちばん多く、次に「働く場所が自宅に近いこと」「自身の仕事上の経験や技術を活かせること」が上位を占めています(図2)。つまり、働く時間や場所を自由に選べるというフレキシブルさ、仕事の経験やスキルを活かせるかどうか、今後仕事に就くかを決めるカギとなりそうです。

図3：介護の仕事への就業意向 (それぞれ単数回答)

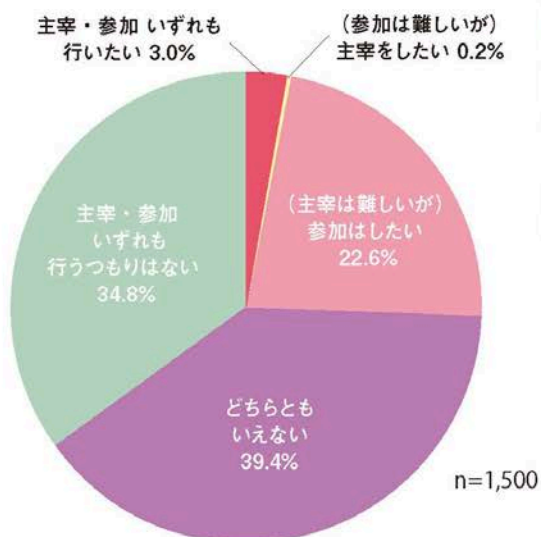


さらに、介護の仕事に就きたいかを、各職種別に尋ねたところ、「仕事をしたい」「やや仕事をしたい」という人の合計は、残念ながらあまり高い数字は出ませんでした。それに対し、生活援助のみのホームヘルパーや、管理・間接部門での仕事、マネジメント業務などは、他に比べてやや高くなっています(図3)。関心を少しでも示している職種については、「どちらともいえない」層に、強くアピールしていくことで、仕事への興味につながる可能性が考えられます。

介護の仕事への関心はどうか？

ボランティアならやってみたいという人は結構多い

図4：今後のボランティア活動意向（単数回答）

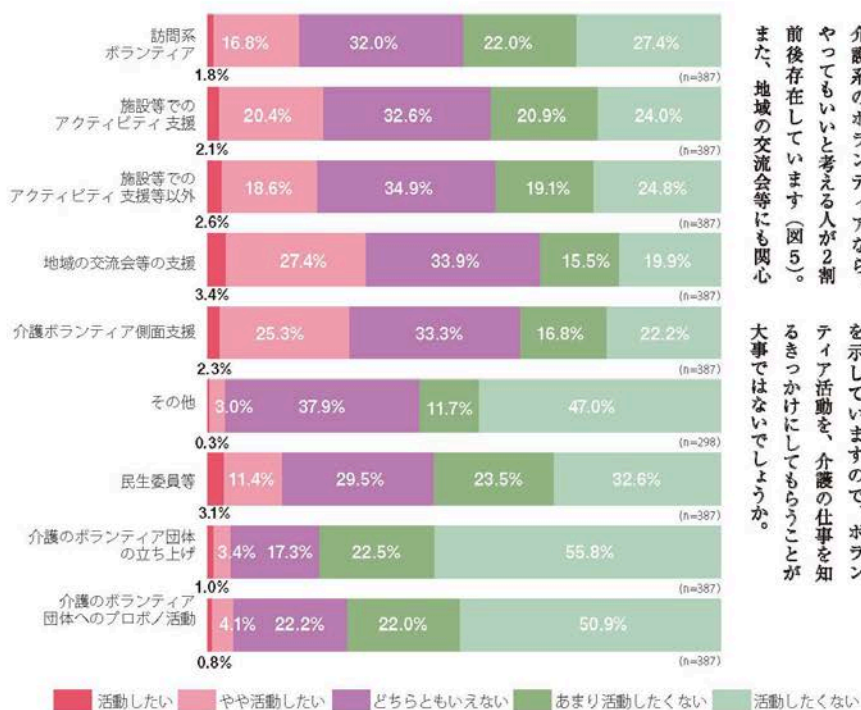


ボランティア活動については、4人に1人が、何らかの関わりをもちたいと回答しました（図4）。分野としては、「自然保護や環境保全活動」「地域イベント（夏祭りなど）の運営支援」が大半を占めています。なかには高齢者に関する活動を挙げる人も3割程度存在しました。このことから地域に貢献したり、社会に貢献したりすることに意義を感じている人が一定数存在することがわかります。

は高齢者に関する活動を挙げる人も3割程度存在しました。このことから地域に貢献したり、社会に貢献したりすることに意義を感じている人が一定数存在することがわかります。

ボランティア志向は結構高い

図5：介護関連のボランティアへの参画意向（それぞれ単数回答）



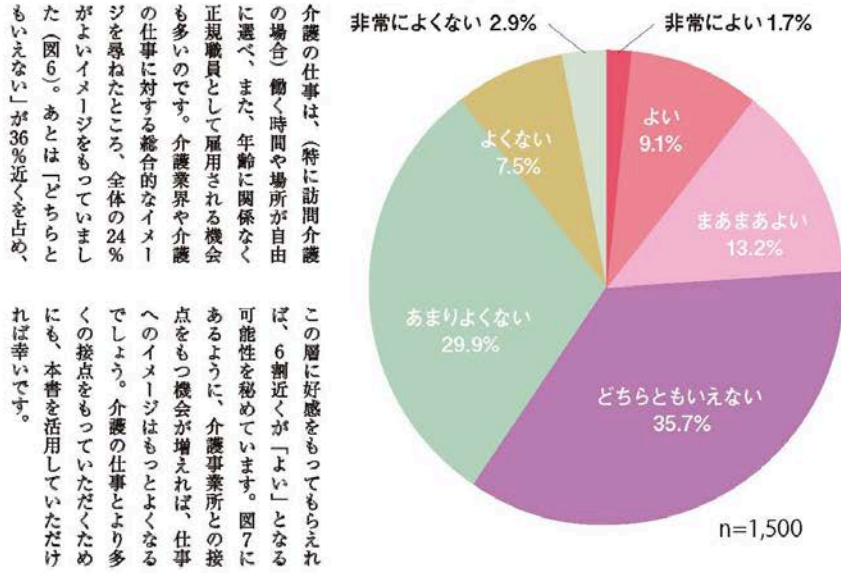
介護系のボランティアなら、やってもいいと考える人が2割前後存在しています（図5）。また、地域の交流会等にも関心を示していますので、ボランティア活動を、介護の仕事を知るきっかけにしてみようことが大事ではないでしょうか。

ボランティアなら介護関連の仕事にも興味を示す傾向が

まずは介護との接点をつくるのが大事では？

介護の仕事のイメージアップには、
まず接点づくりから

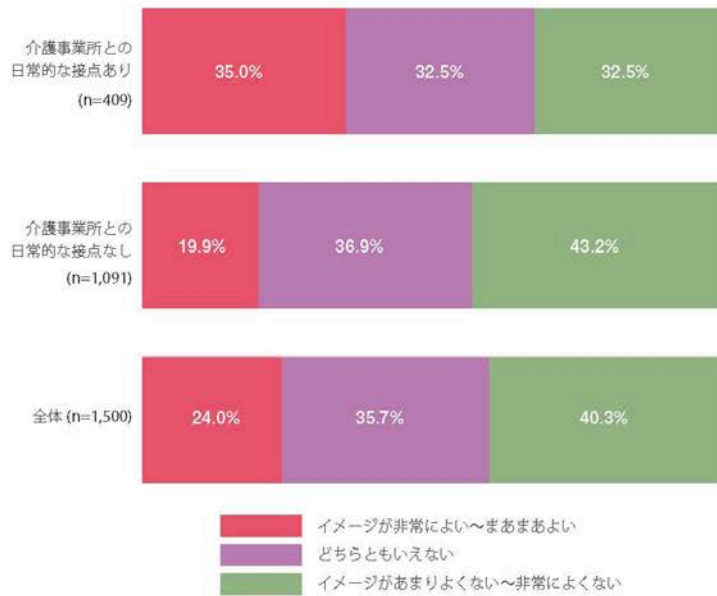
図6：介護業界や介護の仕事に対するイメージ（単数回答）



介護の仕事は、（特に訪問介護の場合）働く時間や場所が自由に選べ、また、年齢に関係なく正規職員として雇用される機会も多いのです。介護業界や介護の仕事に対する総合的なイメージを尋ねたところ、全体の24%がよいイメージをもっていました（図6）。あとは「どちらともいえない」が36%近くを占め、

この層に好感をもってもらえれば、6割近くが「よい」となる可能性を秘めています。図7にあるように、介護事業所との接点をもつ機会が増えれば、仕事へのイメージはもっとよくなるでしょう。介護の仕事とより多くの接点をもつていただくためにも、本書を活用していただければ幸いです。

図7：介護事業所との日常的な接点と介護に対するイメージ



—さまざまな働き方をしているシニアたちにインタビュー—

海上保安庁のパイロットから障がい児支援のヘルパーに



リストラされた熟練の印刷工からデイサービスの正規職員に



非常勤のヘルパーから正社員、エリアマネージャーに



